

平成 28 年度 第 3 回 池田市子ども・子育て会議 議事録

日 時：平成 29 年 3 月 2 日（木） 午前 10 時～正午

場 所：池田市役所 3 階 議会会議室

出席者：倉田市長、委員 10 名、事務局他 17 名

1. 開 会

市長挨拶

- ちょうど 1 年前は、4 月 1 日現在で 95 人の待機児童が発生するという事で『保育所待機児童問題緊急対応宣言』を行ったところであり、石橋の「ふくまるキッズ園」の整備や、私立保育園の皆様方のご理解、ご協力を得て、9 月 1 日付けで解消することができた。
- 昨年 12 月 3 日、テレビ大阪の開局 35 周年の特番では「関西で子育てしやすい街ナンバーワン」に池田市が選ばれた。このことを誇りにしながらも、それに驕ることなく、取り組んでまいりたい。
- 今年の 4 月 1 日に、幼保連携型認定こども園 3 園、認可保育所 1 園の認可を予定しており、定員は 109 名増員になるが、想像以上のスピードで保育需要が高まっており、そのニーズに対応できるだけの容量が確保できていないのではないかと。先日、私立保育園の経営者の皆様と話し合いをさせていただいたが、やはり保育士確保が一番の問題。また公立と私立の給与較差があるので、新年度からは、私立保育園で採用された新しい保育士さんにお祝い金を渡すほか、基本助成についても今まで以上に充実させていく。
- 教育委員会はソフトバンクとの連携事業が実り、この春からロボットの「Pepper」が 100 台、池田市の全小中学校にやってくる。プログラミング教育のために 3 年間の無償貸与ということで、教育委員会も教育日本一を目指して頑張ってくれている。

2. 内 容

1) 池田市子ども・子育て支援事業計画 平成 27 年度実施状況報告書について

《質疑応答》

- Q. 池田市では利用者支援事業を平成 28 年度から実施しているということだが、子育て世代包括支援センターやワンストップサービスといった総合的な支援ををどう展開していくのか、改めて今年度の取組について説明を。
- A. 平成 28 年度からは保健福祉総合センターにおいて、妊娠から出産・子育てへの切れ目のない支援を行う母子保健型の利用者支援事業を開始しました。今後、基本型や特定型への展開に広がっていただければと考えています。

《意見》

- 保健のことだけでなく、保育所のことなども全て一括で聞ける場所があれば、もっとわかりやすくなるのでは。相談員がどこにもお伺いをたてずに、質問に対してダイレクトに答えることができれば、利用者さんにも安心してもらえるのではないかと。

- ・ 今回の報告は、平成 27 年度の取組について数字等もきっちりと確定させた上で平成 28 年度末に行っているということだと思うが、せっかく倉田市長のもと様々な施策に迅速に取り組んでいただいているので、次年度の前半の会議の時に実績値や途中経過の報告があると、委員としてもリアルタイムに確認できるので、検討していただきたい。

2) 五月丘保育所移転・民営化の進捗状況について

《質疑応答》

- Q. 五月丘保育所の移転先の周辺はとても坂が急なので、登校している子ども達がいる中、結構なスピードで坂の上り下りをされているのが心配。ヒヤッとする場面も多々見られるので、車での送迎をされる方もいると思うが、車の件だけは配慮をお願いしたい。
- A. 貴重なご意見ありがとうございます。運営事業者の選考や、運営事業者による施設整備にあたっては、車あるいは近隣住民の方への配慮をしっかりと考えて、運営事業者共々、より良い保育を目指して取り組んでまいります。

3) 幼保連携型認定こども園及び保育所の認可について

4) 特定教育・保育施設の利用定員の確認について

《質疑応答》

- Q. 今回、利用定員の確認を行う施設のうち、3 歳未満児のみを預かる保育施設が 2 園あるが、この 3 歳以降の受け入れ先についての確認はなされているのか。
- A. 3 歳以降の受け皿については、連携施設を必ず設定していただくようお願いしており、今回の 2 園につきましても認可にあたって確認しています。もちろん、保護者の方のご希望もありますので、全ての方が連携施設に入ることではありませんが、継続した保育を受けていただけるよう配慮させていただいております。

5) 特定教育・保育施設の保育料の一部改正について

① 池田市立幼稚園条例の一部改正（案）について

《質疑応答》

- Q. 公立幼稚園の保育料が一律ではなく応能負担となるが、公立幼稚園の今後の展開は。また、実際に利用される保護者へはどう説明するのか。
- A. 今後の幼稚園教育に関し、現在、市長部局も含めて将来設計について議論しています。プレ保育の充実や、今後の 3 年保育に向けても検討し、応能負担にする際には、市としても何らかの施策を講じていきたいと考えています。周知については広報誌、ホームページなどで充分に行うほか、必要に応じて説明を行いたいと思っております。

Q. 幼稚園のプレ保育については母子分離型や親子来園型などのパターンがあり、保護者から母子分離型を増やしてほしいとの声を聞くことがあるが、そういった展開はあるのか。

A. 現在、池田市では母子分離型と親子来園型を行っていますが、内容については精査している状況であり、今後、保護者の方や地域の方のご意見をいただきながら進めていきたいと考えています。

② 平成 29 年度池田市保育料の軽減について

③ 平成 30 年度池田市保育料の改定について

《質疑応答》

Q. 国基準に依じて保育料が上がっていくというところで、実際上がった保育料の増収分については何に還元されていくのか。

A. 保育所の運営経費・管理経費に充てていきたいと考えております。

6) 平成 29 年度予算（案）概要

《質疑応答》

Q. 妊娠・出産支援事業について、妊娠届の受理や対応についてはどのように行っているのか。

A. 妊娠届の受理に対しては保健師が全数対応しています。1 人あたり 40 分ほどかけてしっかりとお話をさせていただき、後につないでいくという形をとっています。

Q. こども食堂について、前回の子ども・子育て会議（8 月 5 日）での報告以降の状況は。

A. 前回の報告時点より 1 つ増え、現在は 4 つのこども食堂が開設されています。

《意見》

- ・ 乳児の子育ては出産直後が一番しんどい。聞き取りによってたくさんのデータを採られていてもそのデータを次に活かしていくという接続がないと、せっかくの手厚さがそこで終わってしまうので、それをうまく制度につなげていってほしい。
- ・ 保育士確保事業の就職お祝い金については、池田市の強い意気込みが伝わってくるが、他市でも同様の取組は行われている。その中で、池田だからこそ勤めたい、勤め続けてキャリアを積みたいと思われるような仕組みを今後展開できればよいのでは。
- ・ こども食堂に来られている子どもについても、小学校などとうまく繋がって情報共有していければ。ただし、こども食堂に行っていることで偏見の対象になってしまわないような工夫も必要。

3. 閉 会